



栄光園だより

第113号

2018年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

栄光園設立の頃

評議員 平野 紀美代



先日、栄光園は創立何年になるんでしょうか？と何気なく江口理事長にお尋ねしたところ、66年になりますと即答。昭和20年の敗戦から7年後の昭和27年、荘園の広大な土地に、県内初めての乳児院が立てられました。栄光園です。当時の別府市荘園地区とどう云う所だったのでしょうか。住宅地であり、六角温泉、七つ石温泉は当時からありました。一番大きな公の建物はやはり九州大学温泉治療学研究所、通称九大温研と呼ばれていた病院です。(現在の九州大学病院別府病院)

街からの交通手段は北浜から亀の井バスが走り、温研玄関前が終点で、これは現在も変わっていません。最終バスは夕方6時頃でした。勤務しておられた医師と云えども、当時はマイカーなどお一人として持っておられず、皆さん診察に見

える患者さんと一緒に満員バスで揺られながらの出勤でした。そのバスの中を女性の車掌さんが切符を切りながら廻るという状態でした。夕方最終バスに乗り遅れると野口の墓場を通り、歩いて帰らざるを得ません。道路は舗装されておらず、台風が過ぎ去った後などは、岩がむき出しになったポコポコ道を車体を大きく揺らせながら、バスは走っていました。今、市内をガラガラで走っている亀の井バスを見ますと、なんだか気の毒になってしまいます。みんなマイカーになってしまったんですね。

当時、私は九大温研の臨床検査室に勤務しており、医師が博士号取得のための動物実験のお手伝いもしていました。兎に餌をあげるのも私の仕事です。毎朝、大きな木箱いっぱい「おから」が届くのですが、そのおからの大豆の香り

がたまらなく美味しそうで、思わず自分の口に入りたい！兎が羨ましかったことなど今でも忘れません。それ程食べ物になかった時代です。お米は配給制で一人一日2合1勺、観海寺入口にあったお米屋さんに朝早くから並び、もう少しで自分の番だと思っていたら「今日の配給はこれまで」と云われトボトボと歩いて帰ったこと。とにかく毎日「お腹がすいた!!」の連続、満腹感を味わいたいと願う日々でした。大根葉は最高の御馳走でした。これは私だけが経験した日々ではなく、日本中の多くの方々が味わった戦後の一番苦しい時代でした。

その様な戦後の苦しい日々の中で、野町良夫牧師と小郷虎市夫妻が幼い子どもたちの生命を守るために栄光園設立を思い立たれたのです。野町牧師はお子様五人をお育ての中、教会の少ない謝儀の中、野町夫人は黙々と牧師をお支えになりました。小郷兄とお二人で、血の汗を流しながら歩かれ、ただ神が成して下さるとの信仰に立ち、身を粉にして働きになりました。宣教師のキャザリン・ステイブン先生をはじめ多くの協力者を与えられ栄光園乳児院は竣工の日を迎えたのです。

現在、子どもたちを愛し、見守り、その成長を祈り願いながらお働き下さっている職員の皆様は深く感謝いたします。



児童養護施設

キャサリンホーム

保育士 神野 怜央

大舞台での経験を

世界的ジャズ奏者である渡辺貞夫さんと別府市の3つの児童養護施設の子どものためのコンサート「シェアザワールド」。2014年を皮切りに2年おきに開催され今年で3回目となりました。私は前回の経験を活かし、今回副責任者という立場で参加させていただきました。

当施設では5月から8月の本番までの約3ヶ月間練習に励みました。小学生から高校生までの幅広い年齢層の参加ということもあり、学業や部活動の影響で練習に参加できない、一向に歌詞や振りが覚えられないなど、多くの困難に直面しました。そんな中、経験者である児童が初参加の児童にわかりやすく教えてあげる助け合いの姿があったり、例え上手にできなくてもとにかくこの機会を「楽しむ」ことを最優先に取り組みました。練習を重ねることに参加者全員が団結していき、本番では練習以上の成果を発揮することができ、素晴らしいコンサートとなりました。

練習期間で学んだ団結することの大切さ、本番の大舞台でそれらを発揮することの経験やステージからの景色を参加者全員が心に刻み、今後の人生に活かしてくれたらと考えています。

ウエストホーム



保育士 萩尾 裕樹

シエアザワールドを通して

2年に一度8月に行われる、渡辺貞夫さん主催によるシエアザワールド。今年がその開催年であり、別府市の児童養護の子どもたちが中心となって協力し合う、かけがえない時間です。私は今年初めて参加をさせて頂きました。その中で印象的だったことについて述べたいと思います。

当園のシエアザワールドの参加児童は小学生が中心となっています。小学1年生から小学6年生と、集中力や体力に大きな差がある中で練習が5月より始まりまして。8月の本番に向け一生懸命頑張る姿がとでも印象的なスタートでした。もちろん歌詞を覚えるところからのスタートでしたが以前経験をした子どもたちも多く、個人差はあれど、子どもたちの覚えが早く、順調なスタートを切る事が出来たことを思い出します。

8月の本番に向け練習を頑張る子どもたち。8月を迎えるにつれ暑さが増し、体力や集中力を奪っていきます。そんな中でも練習が始まれば元気に頑張る姿を見て大人も負けてはいられないと強く思いました。

そしていよいよ本番当日を迎え、これまでの練習の成果が十分に発揮される素晴らしい舞台となったことを今でも強く思い出すことが出来ます。目標を決め、それに向けてどのように頑張るかが大事だと学ぶことが出来た瞬間でした。

ムラカミホーム



保育士 小野 紘子

初めてのシエアザワールド

今年で3度目となる「渡辺貞夫と子どもたちシエアザワールド in Beppu 2018」の場所をつないで「のコンサートに初めて参加させて頂きました。小学生以上の子どもたちがバックコーラスとして歌を披露しました。

8月の本番までの約3ヶ月間、子どもたちと園での練習や他施設との合同練習を重ねてきました。思っていた以上に歌や動きの難易度が高く驚きました。同じホームの初参加の小学1年生は、リズムに合わせて動くことが苦手な子どもでも動きが急に早くなったり遅くなったりすることがあり、私も一緒に動きながら何度も練習しました。出来た時は褒め、無理せず楽しく練習出来るよう心掛けました。他の子どもたちも一生懸命で、子どもたちが楽しく歌う姿や「私が一番真ん中で歌いたい!」と言う向上心に「自分も頑張りたい!」と言う気持ちにさせられました。子どもに寄り添いながら出来たときは褒め一緒に喜びを共有する大切さを再確認しました。本番では、笑顔で楽しく歌い続けることが出来ており感動しました。次の機会があれば、同じホームの子どもだけでなく、全体を見て指導が出来るよう力をつけていきたいと思えました。

マツモトホーム



児童指導員 太田 有香

夏休みが終わって

例年以上に長い夏休みが終わわり、2学期が始まりました。マツモトホームは9月末に3歳の女の子が家庭引き取りになりました。現在は3歳の男の子1名、小学生と中学生の女の子4名のホームです。3歳の男の子は9月初めに加わった新しいメンバーです。少しずつホームに慣れてきています。少しづつ顔をしたりホーム内を動き回ったりしています。さらにやんちゃになりそうな気配もします。小学生と中学生の女の子たちは久しぶりの登校、新たな出会いと別れにより様々な思いを抱えているように感じます。思いをそのまま言葉にする子もいれば、違った形で表現する子もいます。イライラしていたり、「学校に行かない」「ご飯を食べない」といった「〇〇しない」攻撃を仕掛けてくる子もいます。理由を聞いても言葉にしな

いこともあり難しさはありますが、1日の大半を過ごしている学校での出来事や様子を先生に聞いたり、園の職員と情報を共有しながら言動の背景を考えながらの対応ができるように心掛けています。

オゴウホーム



児童指導員 直野 弥呼

2学期開始のワクワク感・行きしぶりの対応等

長い夏休みも明け、子どもたちは待ちに待った2学期を無事に迎えることができました。宿題もなんとか終わらせ、始業式当日は「行ってきます!」と笑顔で元気よく登校・登園して行きました。

一方で休みが長かったことで「学校が不安」と言う子どもがいます。2学期開始が徐々に近づいてくると気持ちが不安定になる様子が目立ってきました。その度に『今は夏休みを楽しもう。学校が始まったからまた一緒に考えよう。』と声掛けをしながら寄り添いました。

少しでも不安な気持ちを和らげ、抱えている思いに目を向けるよう心掛けています。「行きたくない」と口には出しますが、それでも学校を休まず一歩を踏み出した時には、「学校に行けた」ことを認め一緒に喜び励ましています。

子どもたちにとって学校は勉強だけでなく、友人関係を中心に対人関係を学び社会へ巣立っていく準備をする場だと思えます。可能な限り有意義な学校生活を送れるよう今後も、背中を押して応援していきたいと考えています。



ノマチホーム



保育士 帆秋 堅太

ノマチホームの夏

今年の夏季休暇は、初めてホーム全員でキャンプに出かけました。長崎鼻リゾートキャンプ場内に昨年できたばかりのコテージに宿泊しました。まるで新築のお家のような環境に子どもたちも大喜びでした。現地では、コテージ内の探検から始まり、海水浴や釣り、BBQを行いました。中高生ということもあり、直接言葉で「楽しかった」などと言いませんが、終始笑顔で表情豊かにしている姿を見て計画をした職員も確かな手ごたえを感じました。

もう一つの大切な行事として中学・高校三年生の三者面談があります。私の担当している高校三年生も進路選択の時期を迎えました。入学時より理学療法士を志し、学業と部活動の両立に励んできました。努力の甲斐もあり、第一希望である専門学校への指定校推薦を頂くことが出来ました。現在は進学を想定して卒業後の生活場所や学費の工面に関して準備を進めています。

社会に出てからの負担が少しでも軽減できるように、二十歳前までの措置延長システムの説明や給付型の奨学金の申し込みを行ってきました。

今後も、自立に向けたサポートができるよう、児童の気持ちに寄り添いながら、充実したホームの外出行事などの計画を実施するように考えています。



シェアザワールド in Beppu 2018 こころをつないで



護施設の子どもたちが

この8月、別府のビーコンプラザにて、世界的ジャズ奏者渡辺貞夫さんのコンサートが開催されました。別府の三つの児童養育施設の子どもたちがバックコーラスで参加する演奏は、2年おきに開催され、今年で3回目です。事の発端は、山口産業の社長山口巧様ご夫妻のジャズに対する熱い思いが会社50周年記念に際し、渡辺貞夫さんのコンサート開催を別府の地で実現したいと思われたこと。また児童福祉を支援し続けて来られたご夫妻が抱かれたのは、別府の三施設の子どもたちとそのバックコーラス参加で、成功体験を持って、豊かな人生につなげてほしいとの思いに渡辺さんが賛同され実現に至ったのです。

私たちの専門性をはるかに凌ぐもので、渡辺さんの子どもたちに対する温かい思い、演奏を最高のものにしたという熱意、音楽芸術の人生に与える影響のすごさなにかと思わされます。なにしろ、音楽の専門家になろうと考えて施設に来ている子どもはいないのですから。

演奏終了後の打ち上げでは、渡辺さんの膝に座って自分のTシャツの背中にサインをもらう子どもたち。サインして下さった方のすごさを子どもたちが知るには10年以上の歳月が必要かもしれません。

心優しく、バイタリティーの塊のような85歳の渡辺貞夫さん。毎年のクリスマスには、DVDにてビデオメッセージをいただくのが恒例になりつつあります。子どもたちの人生を豊かにする出会いの大切さを思わされるべきことでもあります。

コーラス責任者

榎本 薫



乳児院

日増しに秋らしくなってきました。今年には猛暑や台風で思うように外遊びができませんでしたが、気候も良くなってきたこの頃は、園庭やグラウンドで遊んだり、散歩に出かけたりと外遊びを満喫しています。

虫さんいるかな？



ぞう組の子どもたちは外遊びが大好きで、天気の良い日は毎日のように外遊びをしています。この頃は虫取り網を持って出かけるのがブームのようで、1人1本ずつ持って出かけています。

「虫さん、どこ？」と探しては「おっ！」と網をおろして虫を捕まえようとしていますが、カラ振りでした。でも、負けずに「おっ！」と探している姿は頼もしく感じます。

少し前までは、保育者に「捕まえて」と言わなければ「ん」「ん」と指をさして訴



えていたのが、今では「自分で」と言うようになり、子どもたちの成長は目を見張るものがあります。私たち保育者は、子どもたちの小さな変化や成長を見逃さないよう、丁寧な関わりを心がけていきたいと思

摂食指導について



乳児院では、毎月摂食カウンセラーの中

島知夏子先生に摂食の指導を受けています。摂食を通して子どもへの関わり方のアドバイスを受け、グループの職員で話し合いながら統一した関わり方をしています。



実際に食事の時間を先生に見ていただき、グループ職員や栄養士と一緒に一人ひとりの子どもについての課題などを確認していきます。

例えば、グループ内で子どもの気持ちに不安定だという時には、その原因を探るとともに、どういう方法で対応すれば子どもが安心するのかというところを、先生からアドバイスをうけ、具体的に食事や生活の場面でその子にあった丁寧な関わりを学び、グループ職員が統一した関わりをします。すると、子どもも落ち着き、食べ方も変化

していきます。このような変化を見ると、小さい子どもは生活のすべてが「食」に連動するんだと改めて感じます。毎日欠かさない「食事」であり、子どもにとって一番楽しい「食事」の中で、食べ方

子どものこころを育む

乳児院 臨床心理士 小畑 暢子

社会的養護を必要とする子どもの増加やその子どもが抱える背景の複雑化の中で、乳児院が求められる役割も多様化しています。心理療法的な職員もその中で専門性を発揮する一人ですが、馴染みのない存在であるため「心理療法的な職員って何をする人？」という疑問を持つ方が多いのではないかと

思います。心理療法的な職員の主な仕事は、生活場面でのケア、遊びを通じた心のケア(プレイセラピー)、発達検査(客観的指標)、家族のカウンセリング、他機関との連携などです。

乳幼児は未熟さゆえに、自分が体験したことを正しく認識したり、気持ちを言葉で伝えたりが難しいことがあります。しかし、「心の土台」を育む時期に見聞きしたことや体験したことは子どもに大きな影響を与えます。ゆえに、子どもの様子に関心を向け、生活の様子や職員や家族との関係性からアセスメントを深め、子どものことをより良く知ることが大切になっています。心理士が専門性を持ってたつぷりと関わることでできるのは、乳児院だけ

や関わり方の大切さを見直し、乳児院の子どもたちが心身共に健康に育っていきけるよう、私たち職員は丁寧に関わっていきたいと思います。

からこそです。「信頼感」「安心感」など人としての基盤をしっかり育むことによって、豊かな人生を歩めるよう、子どもにとって、暖かな存在として、支援を続けていきます。

子ども一人ひとりを大切にするために取り組みの一つとして、「個別セラピー(プレイセラピー)」を行っています。普段は物静かな子どもが色々なおもちゃに目移りしながらあれもこれもと遊んだり、普段は思い通りにならないとぐずって落ち着かない子どもがゆつたり身を委ねながら絵本の読み聞かせを聞いたりと一緒に遊ぶ中で日頃とは違う姿を見せてくれることも多く、「子どもにとって遊びは言葉に代わる表現方法なんだなあ」と改めて感じています。

乳児院(集団)で生活する子どもたちにとって、自分だけに注目してもらえたり、他の子どもにも邪魔されることなく自由に遊べたりすることは、特別な意味があります。子どもが表現している思いを適切に汲みとり、その思いを大切にすることで、子ども自身が自分を大切に思う心を育てていければ良いと考えています。

青山保育所

お母さん先生と遊んだよ

8月に一日保育士体験がありました。きりんぐみには4人のお母さんが参加してくださいました。お母さん先生には水着への着替え・シャワー後の体拭き・給食の配膳などを手伝ってもらったり、絵本を読んでもらったりしました。子どもたちは積極的にアピールしたり、甘えたりと様々でしたが、たくさん関わってもらい嬉しそうでした。



保育士体験では、自分のお子さんだけではなく、他のお子さんのお世話をしていたり、保育士の子どもへの関わり方を見ていただいたりしました。少しでも子育ての参考にして頂けることがあれば、嬉しく思います。今後このような機会を設けていきたいと思えます。

人形劇を観たよ

劇団「ぱれっと」さんによる人形劇「桃太郎」を観に行きました。園を出発する前から「たのしみ♪」と言っていた子どもたちでした。知っているお話ということもあり、友達同士で「つきは○○がくるなあ」「あれは○○」など話しながら楽しそうに見ていました。

子どもたちはだんだん物語が進んでくるにつれて話にどんどん引き込まれていき、釘付けに。必死に声を出して桃太郎を応援したり、鬼が退治できると大喜びしたりしていました。生で演じている人形劇やオペレッタを見て、テレビや映画とはまた違った迫力を子どもたちなりに感じてもらえたのではないかと思います。こういう体験を通して、表現したり演じたりする楽しさや面白さを知ってもらえたらいいなと思います。



自分での気持ち大切に

洋服を着替えている時に、「自分で」とズボンをはき始めたものの、片方の穴に両足を入れて「???」という表情のHちゃん。「Hちゃん、おしかつたねえ!! もう一回してみようね」とズボンを前に広げておいてあげると、一人で上手に履けて、得意げなHちゃんです。

ばんだ組の1、2歳児は、まだまだ保育士の援助が必要ですが、頑張って着替えをしている子どもたちです。時間はかかりませんが、すぐに手伝わってしまうのではなく、上手にできなくても、自分でしようとする意欲が見られたときには、十分ほめて見守っています。発達に合わせて少しずつ援助を減らしていき、「自分でやった」という達成感を感じられるようにしていきたいと思えます。

大型プールで大はしゃぎ

8月末でプール納めとなりましたが、プール遊びを通して大きく成長したぞうぐみの子どもたち！初めは水しぶきが顔にかかる顔をしかめていたお友だちも、今では水のかけ合いをして楽しめるようになってきました。水に顔をつけることが出来ていたお友だちも「今日は○○秒頑張ってみるけん、数えてな！」と日々記録に挑戦！時には、「ちよつとこつちで練習する」と端っこでこっそり練習する姿も。苦手なことや新しいことに挑戦し、出来るようになったことを喜ぶ姿がたくさんみられました。その喜びを保育者やお友だちとも共有することが出来て、心も大きく成長したようです。



クッキングにチャレンジ

2歳児のお友だちはクッキング「フルーチェ作り」をしました。とっても楽しみにしていたクッキングの当日。子どもたちは



まずはエプロン・三角巾を身につけてちびっこクックさんに変身しました。クッキングをする上での約束事を聞いた後に石鹸で手洗いをし、自分の席に着きました。これからのよいよクッキングの開始です。計量カップに牛乳を注ぐ人、牛乳をボウルに入れる人、10回ずつ混ぜる人などそれぞれ各テールプルごとに役割を持って取り組みました。フルーチェが出来上がるとマイカップにコーンフレークを敷き、スプーンでフルーチェを盛りつけました。「おいしくなあれ」とみんな魔法をかけてから給食室の冷蔵庫で冷やしてもらいました。でも「食べたかった」と涙を流す子どもの姿も。どうやらすぐに食べたかったようです。この日は、給食までのお片付けも、おトイレも、給食もさつと済ませて、楽しみにしていたフルーチェを笑顔で食べました。「1歳児さんにもどうぞ。」とお裾分けすることができました。とっても楽しかったクッキング、子どもたちはとても落ち着いて取り組むことができました。自分たちで作ったものを食べる喜びを感じることができたのではないかと思います。

野口保育所

朝夕もだいぶ涼しくなってきました。今年も残す所2ヶ月！ 毎日を大切に子どもたちと過ごしたいと思います。子どもたちの様子を少しずつですが、ご紹介していきたいと思えます。

夏の遊び



猛暑のこの夏、毎日プール遊びを楽しみにしていた子どもたちでした。プールに入っている子どもたちは夏の太陽のようにキラキラ輝いていました。



夏祭り

8月4日に「夏祭り」が行われました。今年子どもたちやおうちの方、遊びに来てくださった地域の方みんなが楽しめる夏祭りをテーマに内容を考えました。

手作りのゲームや景品、誰でも遊べるアームレスリング、ピエロの手品、園児や卒園児、保護者の方が参加した催し物も大反響で楽しい夏祭りになりました。



劇団ぱれっとと桃太郎観劇

栄光園のホールで劇団ぱれっとによる「桃太郎」の劇を見に行きました。思っていたよりも人形がリアルで迫力があり怖がる子どももいましたが、楽しい気持ちで勝利大興奮の子どもたちでした。

食の安全教室 手あらうんじやー



東部保健所と溝部学園短期大学幼児教育科の学生さんに正しい手洗い方法を教えていただきました。

子どもたちはショーを見たり教えてくれた手洗いを実践し、チェッカーを使い汚れが取れているかなど楽しく教えていただきました。



おじいちゃん・おばあちゃん 遊ぼう会(え)

敬老の日を兼ねて子どもたちのおじいちゃんおばあちゃんを保育園にご招待しました。

おじいちゃんやおばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、一緒に給食を食べたりと楽しい時間を過ごしました。

おじいちゃんおばあちゃんから「あまり遊びに来てもらえないから嬉しい！」や「たまにしか会わないので、成長ぶりにビックリしたわ」など、たくさん声が聞かれました。

お月見会



9月21日にお月見会をしました。たぬきに扮した保育士が由来の話や月の歌を歌ってくれました。

お供え物のお月見団子は5歳児(就学児)がお花紙などを使い美味しそうなお団子を作ってくれました。

小さいクラスから大きいクラスまでお月見の雰囲気味わえた会でした。



職場体験

地域の支援学校や中学校の生徒さんが3日間職場体験に、また短大生が2週間実習にきました。

「保育士の仕事は思っていた以上に大変」「子どもたちが笑ってくれて嬉しかった」など様々な感想を教えてくださいました。職場体験や実習生を迎え入れる度に、私たちも初心に戻り保育士のあるべき姿や仕事内容を見直し、また頑張りたいと思いました。

運動会



今年度は別府市民体育館にて運動会を行いました。

台風が悩まされながらも当日は無事に行うことが出来ました。おうちの方からのたくさんの拍手に、子

クリスマス祝会のご案内

12月15日(土) 14時より

児童養護施設栄光園では、毎年12月の第3土曜日、クリスマス祝会を乳児院と共催いたしております。本年度は、12月15日(土) 14時より礼拝と祝会が始まります。年末の大変ご多忙な折とは思いますが、心を静めてイエス・キリストのご降誕を子どもたちと共に祝いしていただけないでしょうか。お立ち寄りいただければ、ありがたいです。事前に電話をいただければ助かります。

もちろん参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただいております。

連絡先：栄光園 TEL.0977-23-2827 別府市南荘園町3組



どもたち一人ひとりがまたひとつ経験がふえました。
子どもたちの頑張ったたくましい姿や保護者の方のご協力にも感謝し楽しく運動会を終えることができました。

聖書の言葉

「人を裁くな。裁かれないために」(マタイ7章1節)

チャプレン(別府不老町教会牧師) 齋藤 真行

子どもは、養育者や自分にとって大事な周囲の大人の言葉をそのまま、絶対的に正しいものとして信じ込んでしまう傾向があります。子どもにはそういった言葉への疑問や批判精神を発揮すること自体が、土台無理な話です。

その言葉がどんなにひどいもので、どんなに人の心を傷つけるものでも、子どもにとってそれは「正しい」ことになり、心の奥底に沈みます。子どもは心に沈んでいる言葉によって、やがて無意識のうちに関わりがなくなる人になり、自覚できないうちに自由を失ってしまいます。自らも大人となり、「なぜ、自分はこういう生き方しかできないのだろう」と自問してみても、その理由が心の奥底に沈んでいる、子どもの頃に聞いた数々の言葉によるとは、そう簡単にはわかりません。

聖書では「裁くな。裁かれないために」との聖句があります。「裁く」とは「決めつける」くらいの意味だと考えていいと思います。私たちは関わっているだけかについて、まったく一方的な自分の考えにより、決めつけの判断を容易に下しがちです。「あの子は、な子だ」「あの人は、な子だ」など、一度や二度程度の経験により、その人について断定的な決めつけをして、それを相手に伝えてしまいます。「あなたは、な人

だ」という風に、こちらの視点での「決めつけ」を告げてしまうのです。

そういったネガティブな決めつけ言葉が、子どもの心に沈んでいき、やがて子どもの人生を支配するようになっていきます。おそらく大人になってから、その子は自分を育てた人や社会で出会う人に対して、自分が受けたのと同じような「負の決めつけ」をしてしまうでしょう。自分が言われたことを、知らず知らずのうちに関わりがある人に言ってしまうのです。

こうして、負の言葉の世代を越える連鎖が生じます。私たちと関係が深い人々が織りなす「伝統」や「家風」に流れる「負の言葉」が、私たちの人生をいつの間にか支配してしまうとするなら、なんと困難な課題を私たちは生まれながらに背負っていることでしょうか。

聖書が示しているように、「自分の世代で裁きの連鎖を止める」ことを心にとどめ、自らの語る言葉を負から正のものへと転換していく必要があります。そのためには、私たち自身が「善き言葉・善き思想」によって日頃から養われていることが最も重要な課題です。聖書を含めて、人類の先人たちが残した書物や言葉に親しむ、比類ない重要性がここにあります。

社会福祉法人 栄光園

2017~2021年 評議員

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員
平野	細井	長野	齋藤	山名	池田
紀美代	哲也	真行	陸子	康雄	友一

2017~2019年 役員

理事長	理事	理事	理事	理事	理事	理事
江口	安部	猪股	近藤	熊谷	本庄	吉本
敏保	通安	登喜子	智宏	安真	宏宏	真宏

お詫び・・・前役員名にミスがあり大変失礼いたしました。



7月~9月
社会福祉法人 栄光園
職員の内職・異動

8月 退職

乳児院
望月 さくら
(保育士 8月31日付)

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員のおもに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

この支援の核になっっているのが「賛助会」です。半世紀近く賛助会会長として、また、嘱託医としてご奉仕いただきました松本小児科医院の松本常圃先生が会長職を退かれ、賛助会名誉会長になりました。その後任として今年度より、現在、松本小児科医院の理事長で院長でもあらられ、現在嘱託医として栄光園を支えていただいております。松本重孝先生が賛助会の会長をお引き受けいただくことになりました。全く感謝であります。

世代を超えて栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。

【2018年7月1日より2018年9月30日まで】

賛助金

- 阿部薫様 速見郡日出町
- 宇戸美和子様 大分市
- 加藤敏夫・千佳様 竹田市
- 木村洋子様 大分市
- (有)後藤商店様 別府市
- 立花旦子様 大分市
- 匿名名様 兵庫県西宮市
- 別府不老町教会 別府市
- 松本小児科OB会様 別府市
- 宮沢淑子様 大分市
- 山口産業(株)様 別府市
- 渡邊曉子様 別府市

一般寄付

- 安東秀典様 大分市
- 伊勢方信様 別府市
- 岩田哲也様 大分市
- 匿名名様 別府市
- 小手川裕市様 別府市
- 塩田頼明様 別府市
- 鈴木規夫エンジョイゴルフ大分様 大分市
- 匿名名様 兵庫県西宮市
- 匿名名様 別府市
- 萬松寺 久恒正典様 別府市
- 三村保子様 北九州市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 太田佳子様 静岡県浜松市
- 梶原康弘様 大分市
- 神鳥慶子様 杵築市
- くろーばー薬局 別府市

特別物品寄付

- 栗・かぼちゃ・じゃが芋 NPO法人むぎの会様
- ジュース 旭環境管理梶原和廣様
- 衣類 池田宏様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- お菓子 石崎めぐみ様
- お菓子 江崎博登様
- お菓子 割烹鮨「幸喜屋」様
- アイスクリーム 加藤翼様
- ブドウ 角脇博文様
- 西瓜 角そのだ様
- お菓子 (株)ユーコー中村雄二様
- お菓子 (株)ユーコーラッキーグループ南的ヶ浜店様
- 衣類他 河合悦子様
- 納豆 九州納豆組合大分支部様
- アイス 九州アイスクリーム協会様
- トランプ くろーばー薬局様
- お菓子 国立別府重度障害者センター様

- 衣類 後藤朋子様
- 米 小早川靖様
- トマト 志手良久様
- 子ども衣類 白石郁様
- 缶ビール・お菓子 杉町圭蔵・千穂子様
- 衣類・オムツ・他 (有)第一物産様
- 衣類 徳永響太様
- ブドウ50房 (有)豊田緑化様
- ジュース 内藤正春様
- 西瓜・米 長岩保雄様
- 洗剤・文具 中村里子様
- お菓子・梨 中山田正春様
- 梨 二宮鶯様
- なし・かぼちゃ 二宮洋典様
- じゃが芋・玉ねぎ

日本花の会事務局長河野篤様

招待・奉仕

- 布団 野口克子様
- トマト・じゃが芋・玉ねぎ 藤井直美様
- 衣類 藤野直美様
- 衣類 藤井未希様
- 食品5種類 (株)フレイン様
- 乳児衣類 星野悦子様
- お菓子・果物 萬松寺久恒正典様
- お菓子 光田加壽子様
- 生活の中の援助誌 南さつまこどもの家様
- 衣類 村瀬久美子様
- クリ・大鍋セット・サンシェイドネット 山本宜雄様
- お菓子 (有)ヴィーナスギャラリ別府様
- 秋刀魚 渡辺貞夫様
- 小中学習ボランティア 安東秀典様
- 井上いつ子様
- 山口香様
- 木本直美様
- 荒金節子様
- 奥山靖子様
- ピアノレッスン 奥山靖子様
- 車両運行乗車会 亀の井バス株式会社様
- 児童散髪 kヘア様

演奏招待 南光物産様
ブルーベリー収穫 NPO法人むぎの会様
ナベサダコンサート 山口産業(株)様

賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何〇でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

猛暑と寒波に挟まれた快適な春秋の短さをこの数年感じるようになりました。別府湾でもマンタが良く釣れるようになってきたそうです。地球温暖化が着実に進んでいるのかと心配です。次世代を担う子どもたちに快適な環境と文化を残したいです。

隔年開催され、今年で3回目の渡辺貞夫様ご厚意のコンサート「シェアアザワールド・in Beppu」は別府の3施設合同の貴重な機会となつて、8月5日成功裏に、子どもたちは満足気に終えることができました。感謝でした。

(敏)